

2	Dutch Parliamentary Election Study, 1994 [ICPSR 6740] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/06740.xml	選挙前後2波パネル。 Lubbers-III 内閣成立前後。	過去のものとほぼ同様の内容。	1812人。
1	オランダ全国 / 有権者 / 選挙前後2回			
8	Erie County Study, 1940 [ICPSR 7204] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/07204.xml	世論の発展と変化、政治意識のダイナミクスを調べる。投票予定の変化に重点を置く。何が意識の変化に寄与するのかを調べる。	党の社会的、思想的な違いの認識、選挙運動への参加、情報収集、ニュースの活用、投票予定、投票予定の候補者。回答者や家族の投票歴、性格、意識、家族や友人、メディア、ラリーの影響。	オハイオ州 Erie 郡。無作為で600人。 5月から11月まで毎月調査。
2	政治			
1	オハイオ州・エリー郡 / 有権者 / 半年・6回以上			
9	Florida Voter Panel Study, 1999 [ICPSR 3435] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/03435.xml	中絶の権利についての意識をさぐり、他の政治問題に対する意識や知識をたずねる。	政治家、政治団体、プロライフ運動についての考え。政治の一般的知識。	フロリダ州。708人。2波パネル。電話調査。
2	政治			
2	フロリダ州 / 有権者 / 半年・2回			
0				
2	French Election Study, 1958 [ICPSR 7278] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/07278.xml	フランスの選挙と政治に関する調査。	憲法案、改正についての投票予定、政治参加の度合い、情報収集をする度合いなどを探る。フランスの国家のありかた、住宅、学校、アルジェリア危機など政治経済的問題について。	1波は1958年9月初めに、2波は1958年11月新政権案について、3波は、議会選挙の2回目終了後。 サンブルを3つにわけ、それぞれ、9、11月、9、12月、11月と12月に調査。
2	フランス			
1	フランス全国 / 有権者 / 4ヶ月・3回			
2	German Election Panel Study, 1972 [ICPSR 7102] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/07102.xml	1972年：経済状況の判断、政党帰属意識、政党のラング付けなど。1、2波では、政治問題に対して様々な意識と関心をたずねた。 1976年：左右の思想尺度でどの辺に自己を位置づけるか、経済問題がどの程度重要か、重要課題に対する意識、自由回答で、経済	1972年：経済状況の判断、政党帰属意識、政党のラング付けなど。1、2波では、政治問題に対して様々な意識と関心をたずねた。 1976年：左右の思想尺度でどの辺に自己を位置づけるか、経済問題がどの程度重要か、重要課題に対する意識、自由回答で、経済	1972年：1波2052人、2波1603人、3波1222人（選挙後）。 1976年：1波2076人、2波1529人
2	ドイツ			
2	ドイツ全国 / 18歳以上 / 1ヶ月・3回			

	<p>German Election Panel Study, 1976 [ICPSR 7513] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/07513.xml ml ドイツ全国 / 18 歳以上 / 1 年・3 回</p> <p>German Election Panel Study, 1983 [ICPSR 8452] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/08452.xml ml ドイツ全国 / 18 歳以上 / 4 ケ月・3 回</p> <p>German Election Panel Study, 1987 [ICPSR 9078] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/09078.xml ml ドイツ全国 / 18 歳以上 / 5 ケ月・2 回</p> <p>German Election Panel Study, 1990 [ICPSR 6192] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/06192.xml ml ドイツ全国 / 18 歳以上 / 1 年間・4 回</p>	<p>状況の理解、選挙運動、新政党、民主過程、公務員、法と秩序についてたずねた。 1983 年: 1983 年の選挙に関する意識、投票行動など。政党への意識や政治家に対する意識。 1990 年: 政治家、政党、政治課題に関する意見が、はじめの 3 波で計られ、4 波では、選挙後に再度調査。 最近の選挙での投票、政党選好、政治家や関連事項に関する意見、3.5 時間労働、ドイツ統一、テレビ報道の中立性など。失業の不安、新聞の好み、家族で政治の話をするか、教育レベル、信仰など。</p>	<p>1969 年: 政治に対する意識、評価、関心、投票行動など。属性。 1980 年: 6, 9, 10 月の調査。内容は他と同様。ドイツの一番重要な課題、年金の</p>	<p>人、3 波 1196 人。 1983 年: 1622 人。 1987 年: 1954 人 1990 年: 2070 人</p>
<p>2 政治</p>	<p>German Election Study, 1969 August-September, [ICPSR 7108] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/07108.xml</p>	<p>ドイツ人の政治家に対する意識、社会問題に対する考えなど。</p>	<p>1980 年: 西ベルリン以外の西ドイツ一般世帯居住の 18 歳以上。</p>	<p>1969 年: 1967 年の回答者のうち 1006 人 55.6% が回答。</p>

3	ツ	ml ドイツ全国／21歳以上／2ヶ月・2回 German Election Study, 1980 [ICPSR 7963] ドイツ全国／18歳以上／10ヶ月／10回	効率、原子力発電、教会と政治、労働悔いまい、オリンピックへの参加、アフガン問題、イラン人質など。また離婚に対する意識、余暇の過ごし方、ストレス源になる経験、属性など。自由回答では、ドイツ統一、アメリカとの関係も含む。	層化多段無作為 (サンブル地点、世帯、個人の3段) 2波は、新しい回答者 939 人を追加。	1980 年: 11988 ケース?
2	政治	German National Election Panel Study, 1972 [ICPSR 7110] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/07110.x	政党や候補者に対する意識、経済や経済・価格政策、外交、ドイツ統一についての意識。 個人の社会経済的属性。	4波パネル調査。 3波は選挙前、最後4波は選挙直後。	6438 人
2	ドイツ	ml ドイツ全国／18歳以上／1年間・4回			
4	政治	Mexican Election Panel Study, 2000 [ICPSR 3380] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/03380.x	メデライアとの接触、政治知識と関心、重要課題への意見、(民営化、失業、犯罪、死刑、政府サービス、政党や政治家への意見、メデライアの信頼度、選挙過程に対する意識、候補者に対する意識など。属性も。	18歳以上のメキシコ人。選挙前後2400人。 選挙運動が開始後ならびに選挙後に調査。そのうちの一部は、4,5月と6月にも調査。	1波 68%、2波 76%、3波 77%、4波 73%。
2	メキシコ	ml メキシコ全国／18歳以上／5ヶ月・パネル2回			
5	政治	National Black Election Panel Study, 1984 and 1988 [ICPSR 9954] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/09954.x	支持政党、関心、大統領投票予定、ジャクソン候補について、彼が出馬したことの影響。人種、ジェンダー問題、経済問題、生活の質、政府の支出、政治参加、宗教や教会の政治。属性。		1150 人。
2	政治	ml 全米のブラック世帯／4年・2回			
6	政治	Panel Study of Political Values in the Former Soviet Union, 1990-1992 [ICPSR 6731] http://webapp.icpsr.umich.edu/c	・時事問題について (出版や放送メディア、ソ連の政治、様々な地位の政治家との関係、各国がソ連から出る権利、アメリカとの関係、外交政策、政府の役割。軍隊に対する	1992年4309人、698人は1990年のパネル調査にも参加。	
2	政治	ml 全米のブラック世帯／4年・2回			

7	<p>oconon/ICPSR-STUDY/06731.x ml</p> <p>旧ソビエト連邦の成人 / 2年間・2回</p>		<p>意識、核戦争の起きる確率、個人の生活や、ドイツの統一、ヨーロッパでの権力、東ヨーロッパの情勢、個人の権利と慈雨宇、ペレストロイカ、国の目標、冷戦、ロシア文化におけるユダヤ系の影響。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活満足感、モノやサービスの入手しやすさ、様々な集団に対する意識、政治家や政府に対する意識、経済の評価、見直し、反政府批判の限界、非中心的経済システムの評価、西ヨーロッパの統合について。 ・政党に対する意識、法システム、組合、教会、軍隊などの制度に対する信頼感、家族内の問題。民主化への動きが、自分の生活や知り合いの生活にどう影響したか。経済、社会、政治の変化、権利や自由、政治や市民団体との関わり、家族や友人と議論するか、国が10-15年の間に直面する問題。 ・1990年と1992年の調査では、自記式の部分を含む。年齢、性別、信仰、婚姻、教育、就業、政党、労働組合員かどうか、国籍、収入、生まれた地域、母国語、住宅。 		
2 2 8	<p>Political Action Panel Study, 1973-1981 [ICPSR 9582] http://webapp.icpsr.umich.edu/icpsr/study/09582.x ml</p> <p>米国・ドイツ・オランダ全国 / 16歳以上 / 2回</p>	<p>一般のおよびその他の方法での政治参加について。アメリカ、ドイツ、オランダ3カ国の2波パネル調査。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生活満足感、物質的な生活の質、政治への関心、持つ者と持たざる者の認識、社会的政治的問題に対する意見、重要な政策課題のランキング付け、現在の政府の評価、左、右政党のよい点悪い点、今の政治や政治システム全体の評価、プロテスタートを認めるか、様々な政治活動への参加状態、投票行動、若者に対する意識、政治への信頼度。 ・年齢、性別、エスニック出身、教育、宗教、婚姻地位、子どもの数、就業状態、職業、組合員かどうか、個人世帯収入、所属団体、活動、親の教育レベルと政党選好。 	<p>全国多段階確率抽出。第1波の調査時(1973-1976年)に16歳以上。</p> <p>POLITICAL ACTION: AN EIGHT NATION STUDY, 1973-1976 (ICPSR 7777), と POLITICAL ACTION II, 1979-1981 (ICPSR 9581)双方への回答者のデータ。</p>	2,625人。

2	政治 イギリス	Political Change in Britain, 1963-1970 [ICPSR 7250] http://webapp.icpsr.umich.edu/ccocon/ICPSR-STUDY/07250.xml	イギリスの政治における変化を捉えるための調査。	政治についての情報源、政党や政党リーダーへの意識、政府の責任、経済的状态、その他の重要な課題。 選挙区の議員を知っているか、社会階級の認識、労働組合の影響も調べる。3大政党に対する意識。 年齢、性別、婚姻地位、子どもの数、宗教、教育、職業、収入。	1963年選挙のない年に開始し、1964年、1966年、1970年の選挙時に実施。 1963年多段階層化抽出。イングランド、スコットランド、ウェールズ。個人世帯か、施設に住む人。 1964年と1966年は、再調査で、1963年にサンブルされた住所に住み、選挙登録をしている人が回答。 1970年は、過去3回に1度でも参加したことのある人のみ。	2922 ケース
2	政治 カナダ	Political Support in Canada, 1983-1988 [ICPSR 9874] http://webapp.icpsr.umich.edu/ccocon/ICPSR-STUDY/09874.xml	カナダの政治、国家、地域社会の支持の要因とその影響を調べるため。	1983年：選挙活動への参加、効率的な法システム、議会、税政策、社会保障システム、軍事力、就業機会の重要性の考え方 1984年：回答者にとっての選挙における重要課題。 1988年選挙前：支持政党、投票歴、言語と文化的帰属意識、自由貿易協定について、選挙において最も重視する問題、ディベイトで誰が印象に残ったか。 1988年選挙後：自由貿易、市民サービス、税、国家公務員の信頼度、環境保護について 全波：年齢、人種、性別、信仰、教育、職業、就業状況、収入をたずねている。	全国、層化無作為抽出。小さな州のオーバーサンブル。カナダの18歳以上。	
3	政治 カナダ	カナダ全域／18歳以上／5年間・4回	政治行動に関わる社会的ネットワークと状況を中心とした選挙運動におけるコミュニケーションと効果を調べる。	1波：政治参加の経歴、予備選挙への参加、一般的な政策への意見、国の重要課題の認識、投票予定。回答者と配偶者の人口学的属性、政党忠誠、選好、政党帰属意識、リベラル保守帰属意識。 2波：回答者の近所、職場、組織参加、余暇、家族についてたずね、それぞれの領域・関係の中で、政治の話をするか、政治についての情報交換があるかどうかなど、政治	インディアナ州サウスベンドの16地区から、無作為抽出。	1波：1984年の選挙運動開始前 2波：選挙前に実施。 3波：1984年の選挙後
2	政治	Presidential Election Campaign Election Study, 1984: [South Bend, Indiana] [ICPSR 6522] http://webapp.icpsr.umich.edu/ccocon/ICPSR-STUDY/06522.xml				
3	政治	インディアナ州・サウスベンド／有権者／半年・3回				

		<p>の重要性をたずねる。さらに、候補者の選好、候補者に対する意識、経済や外交や他の政策問題の予想など。</p> <p>3波：メディア利用、運動中回答者が接触した党、投票行動、運動に関わる課題に対する意識、地域の政治や政治家や団体に対する意識、回答者の社会ネットワーク。</p> <p>政治への関心 キャンペーンとの接触 政党支持 投票</p> <p>社会の変化についての意見（民営化、経済自由化、社会的セイフティネット改革、政治的競合、言論と思想の自由） 外交政策について 民主主義、政府、モラルについて</p> <p>性別、年齢、婚姻区分、家族規模、生まれた場所と現在住んでいる場所の規模、教育、国籍、言語圏、宗教的帰属と実践、職業、職歴の詳細、本人と家庭の収入と支出</p>	<p>ロシア市民の選挙プロセス、政党、個々の政治家に対する態度。</p>	<p>Russian Election Study, 1995-1996 [ICPSR 3323] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/03323.xml</p> <p>「ロシア選挙研究」</p> <p>ロシア全国／有権者／2年間・3回</p>	2
2	<p>投票権を持つ年齢（18歳以上）のロシア市民を多段地域確率抽出</p> <p>1995年12月の議会選挙の前後と、1996年6月大統領選挙直後の3回の個別面接調査。</p>				2841人
3			<p>大統領選挙戦中にテレビが投票者に与える影響を調査すること。</p> <p>特に、テレビ・ニュースおよびテレビでの政治広告が、人々の政治的イメージと情報に及ぼす影響に焦点を当てる。</p>	<p>Televised Presidential Campaign Impact on Voters: 1972 Panel, Syracuse, New York [ICPSR 7989] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/07989.xml</p> <p>「大統領選挙キャンペーンテレビ放送の投票者への影響：1972年ニューヨーク州シラキュウスパネル調査」</p> <p>ニューヨーク州シラキュウス成人／同年に数回</p>	2
3		<p>回答者のテレビの視聴、および候補と課題に関する見解を中心にインタビューがおこなわれた。</p> <p>また、愛党心のような、テレビによって直接影響を受けることがあまりないと思われるが、コミュニケーションの効果を紹介する可能性のある指向性についても尋ねた。</p>			9月前半の第1の調査では、731人。うち650人が10月前半と11月前半の選挙日直前にインタビューを受けた。オリジナルの731人の回答者のうちの676人が選挙後の簡単な電話インタビュー。
2					9月前半の第1の調査では、731人。うち650人が10月前半と11月前半の選挙日直前にインタビューを受けた。オリジナルの731人の回答者のうちの676人が選挙後の簡単な電話インタビュー。
3					9月前半の第1の調査では、731人の回答者がインタビューを受けた。これらのうち650人は10月前半と11月前半の選挙日直前にインタビューを受けた。最後に、オリジナルの731人の回答者のうちの676人が選挙後の簡単な電話インタビュー。

子ども	<p>Three-Wave Political Socialization Panel Survey of Children in the San Francisco East Bay Area, 1968-1969 [CPSR 2341] http://webapp.icpsr.umich.edu/ccocon/ICPSR-STUDY/02341.xml</p> <p>「サンフランシスコイーストベイ地域児童の政治的社会化についての3波パネル調査 1968-1969年」</p> <p>サンフランシスコ・ベイエリア / 4,6,8年生 / 1年間に3回</p>	<p>子供の政治的社会化に関するいくつかの本質的かつ方法論的な問いについて調査した。</p>	<p>子供の、アメリカ大統領のイメージ、政治的参加、政治的知識、政治的経験から政治的参加および政治的エイカシへの一般化、政治的戦略への意識、政治体制への満足、政府の責任についての認知、若者と政治、政党識別についてを調査した。調査のタイミング(第1波 1968年12月、第2波 1969年1月、第3波 1969年5、6月)は、ある大統領から別の政党の大統領に変わるまでの期間を含む)により、子供の大統領像に対する態度の変化を測定。新しく選ばれた大統領のイメージが6ヶ月間にどのようにできあがっていかについて研究された。</p> <p>教育カリキュラムの中の政治的な内容についての質問についての教師の反応や、教室で教室でそのような問題について議論することが適切であるかどうかについての教師の意見も収集している。</p> <p>この収集の方法論的な特徴は、クローズド(1,3,5)とオープンエンドの(2,4,6)質問形式の比較が可能ということ。また、質問の文言まで共通にしたフランスとアメリカ合衆国の政治的社会的化研究の比較、子供の政党の選択およびその時間を越えた安定性とそのほかの意見についての比較研究、が可能ということ。7-8の部分(1-3波、クローズドとオープン形式のデータ)は、調査の3つの波すべてに参加した個人のレスポンスを含んでいる。バックグラウンドの、年齢、性別、人種、知能、宗教、父親の職業、教育、社会的関心などの変数が測定された。</p>	<p>サンフランシスコ・ベイエリアの公立学校とカトリックの学校に通っている4, 6, 8年生。</p> <p>サンブルは、カリフォルニア州バークレイの二つの公立学校と、カリフォルニア州オークランドの3つの公立学校と2つのカトリックの学校に通っている4, 6, 8年生。</p> <p>1968年12月2~20日 1969年1月22~30日 1969年5月22日~6月5日</p>	<p>第一波：クローズド形式 453人、オープン形式 487人 第二波：クローズド形式 482人、オープン形式 509人 第三波：クローズド形式 487人、オープン形式 514人 第1から3クローズド形式 332人、オープン形式 405人</p>
2					
3					
政治	<p>Watergate Hearings Panel Survey [CPSR 7352] http://webapp.icpsr.umich.edu/ccocon/ICPSR-STUDY/07352.x</p>	<p>政治に対する関心とウォーターゲート事件について。事件について、どれくらい知っているか、メディアの利用、政府と政治に</p>		<p>クリーブランド市周辺の投票権を持つ年齢の住人。 クリーブランド市の電話帳から500の電話番号の無作為抽出</p>	<p>第一波：360人 第二波：193人 第三波：135人 全三波に参加した</p>

5	会 問 題	ml ウオーターゲート公聴会パネル 調査 クリエブランド市／有権者年齢 ／1年間に数回	対する感情、事件にかかわった 個人に対する意見を捉える調 査。	行動、政府や政治家に対する信頼の度合い について。 人口学的変数：年齢、性別、教育、職業 それ以外の質問のほとんどは、公聴会がす すむにつれて市民の意見と価値観がどう変 化するかを評価できるように各波で質問さ れた。	出 第一波：1973年5月、上院 ウオーターゲート委員会公聴 会前 第二波：公聴会中（メモリ アルデー休会） 第三波：1973年7月、リチャ ード・ニクソン大統領の事件 へのかかわりを裏付ける、ジ ョン・ディーンによる証言の 後	のは116人
---	-------------	---	---------------------------------------	--	--	--------

3. 犯罪・防犯・警察・更生プログラム・依存治療等のプログラム効果の調査

犯 罪 防 止 ・ 暴 力	Community Crime Prevention and Intimate Violence in Chicago, 1995-1998 [ICPSR 3437] <a href="http://webapp.icpsr.umich.edu/c
ocon/ICPSR-STUDY/03437.x
ml">http://webapp.icpsr.umich.edu/c ocon/ICPSR-STUDY/03437.x ml 「シカゴでの地域犯罪防止と 親密な関係間での暴力」 イリノイ州、シカゴ／18歳以上 ／4年間	女性が親密なパートナーか らの暴力を経験し、その他の条 件が同一の場合、地域の状況が いかに暴力から逃れることを 促進するかあるいは障害にな るかを調べる。	分析単位は個人の虐待された女性（地域で はない）。女性の立場にたち、その場所にと ってあたりを見回すという立場から調査。 シカゴで一番信頼性があり、全面的であ るデータが入手できる最も小さい単位であ る、警察の巡回区域を選んだ。 地域レベルの変数は、有権者の投票率、 公的援助を受ける世帯率、空き家率、所有 される住宅率、女性の貧困世帯率、暴行の 起きる率、そして薬物犯罪率を含む。 人種、民族、年齢、婚姻状態、収入、もし て女性とその虐待者の教育レベル。 社会サポート・ネットワーク（SSN）ス ケール、インタビュを行った際の言語、 ハラスメント、パワハラ・アンド・コント ロール・スコア、ポスト・トラウマティッ ク・ストレス・ディソオーダー（PTSD）診 断、回答者の精神及び身体的健康に関係す るその他のデータ、そして変化。 女性の世帯に関して：彼女がホームレス かどうか、世帯に住む人数とそれぞれの詳 細、世帯に住む彼女の子どもとその他の子供	イリノイ州、シカゴに住む 18歳以上の虐待を受けた女 性。CWHSRにより、少なく とも一度、その後の再インタ ビュを受け入れた人。 シカゴ女性の健康リスク調査 (Chicago Women's Health Risk Study)、1995-1998 (ICPSR 3002)に参加した 人のうち、210の虐待された女性の の長期的データとそれぞれの 女性の居住地域における地域 情報データと組み合わせた。シ カゴ代替警察計略（CAPS）評 価から採られたデータ。シカ ゴ地域警察プログラムの長期 的評価、1995-1998 (ICPSR 3335)。	210ケース
---------------------------------	--	---	--	--	--------

			<p>教、その世帯にはいない子供の詳細、そして先年における世帯構成の変化。 過去1年における援助を求めたかどうか、警察にコンタクトしたか、機関やカウンセラーに支援を求めたか、彼女が保護を受けたかどうか。その関係をたつたか、絶とうとしたか。 先年における暴力事件についての要約的な変数を含む。</p>		
3 0 2	<p>Community Policing in Madison, Wisconsin: Evaluation of Implementation and Impact, 1987-1990 ICPSR 6480] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/06480.xml ウイスコンシン州・マディソン / 4年間・3回</p>	<p>警察の新しい組織構造の効果 を計る。</p>	<p>警官調査：リーダーシップ、捜査員との交流の量、問題解決に使える時間は十分か、スケジューリング調整の容易さ、労働上の安全性、仕事内容、上司、地域との関連、職場へのコミットメント、変化に対する意識など。 市民調査：警察に対する意識、警察と市民のコンタクトの頻度と質、警察の問題解決力の評価、近所の安全の認識、犯罪不安、犯罪被害の経験、他の人の経験、基本的属性。</p>		<p>警官調査：1波 269人、2波 264人、3波 230人。 3波とも回答したのは202人。パネル分析は169人。 マディソン市民調査：1676世帯（センサスブロックから、学生住宅街と商業地域を除外。） EPD 地域では77.8%、他の地域では75.1%。2波では66.2%、772人。</p>
3 0 3	<p>Crime Causation Study: Unraveling Juvenile Delinquency (ds896) 1940-1963年 「犯罪の原因研究：少年非行の解明」</p>	<p>青少年非行の原因のさまざまな側面を探る。 Glueck は、犯罪の原因に寄与するものを社会的（社会的経済的）、身体的（体型）、知性、感情的一気質的なものの4つのレベルから探った。</p>	<p>心理テスト、参加者および家族との半構造化した家でのインタビュー、学校職員とのインタビュー、精神医学的検査、身体検査、施設記録の詳細な検討などを含んでいる。 Gluecks は400以上の要因を分析。 参加者の犯罪史、家族史、学校史、クラブ会員史および兵役歴に関する広範囲なデータを含む、480人の非行者(時間1)の紙データを所有。 多数の社会福祉事務所、犯罪矯正記録、養育家庭の割り当てから、刑務所入所記録</p>	<p>サンプルは 1000 人の白人男性： 非行者 500 人と非行者でない 500 人を、年齢、知能、人種および居住地域で マッチ。</p>	<p>1940-1948(非行者 500 人と非行者でない 500 人) 1948-1956(非行者 453 人と、非行者でない 490 人) 1954-1963(非行者 436 人と、非行者でない 467 人)</p>

			<p>までさまざまな記録も有り。 最初のケースの記録のほか、学力検査(一般、読み方、算術)、知能検査、ロールシャッハ検査結果、精神分析臨床のインタビュー要約などが利用可能な心理的データもあり。 さらに、時間Ⅱの453人の非行者および時間Ⅲの436人の非行者のデータも利用可。研究から除外された175人の非行者の様々なデータもあり。</p>	<p>1993 - 1995年。米国において選ばれた薬物治療プログラムに入ったクライアアント。米国の異なるセクションに位置する6つの都市。 6つの都市は確立された治療制度を有する中・大都市圏でDATOS成人研究(ICPSR 2258)のサイトの一部。 治療プログラムは、意図的に抽出。(1)成人群とは区別して青年群を治療するプログラム。(2)少なくとも毎月5人の患者入会を見積もるプログラムがある所。 37のプログラムが研究に参加。回答者は1993-1995年に治療をはじめた者から抽出。 74パーセントが男性、24パーセントが黒人、21パーセントがヒスパニック系、平均年齢15歳-16歳、平均教育9年間。半分以上は少年法または刑法の違反等があり、3分の2は以前に薬物治療の経験はなく、主な薬物使用のパターンは週ごとまたは日ごとのマリファナのみ使用、またはは</p>	<p>開始時3,382人参加。2974人が追跡調査に選ばれる。(治療中調査:1ヶ月2,258人、3ヶ月1,120人)追跡調査:65.9パーセント(n=1,960)は場所が確認され、60パーセント(n=1,785)が参加。5パーセント(n=14)は死亡した。そして5.4パーセント(n=161)は参加拒否。</p>
薬物濫用治療効果	Drug Abuse Treatment Outcome Study--Adolescent (DATOS-A), 1993-1995: [United States][ICPSR 3404] http://webapp.icpsr.umich.edu/cooon/ICPSR-STUDY/03404.xml 「薬物濫用治療結果研究-青年(DATOS-A)」 3年間・1、3、6ヶ月、12ヶ月後・計4回	DATOS-Aは、治療に入った青年の、複数の地域ベースの予測的長期的研究。 青年の特徴、青年プログラムにおける薬物乱用治療の構造及び方法、そしてこれらの要因と治療結果との関係を調べ、薬物治療の効果の評価する。 研究に含まれるプログラムは3つの主要なものは、化学的依存または短期的入院(STI)、治療のための居住施設(RES)、外来(ODF)。 調査では、摂取、治療内容、フォローアップではDATOS成人研究(ICPSR2258)質問票を、青年用に修正したもの。	<p>開始時調査:治療を開始した患者に、開始時、一週間後に調査。薬物使用と違法な掛かり合いなどの行動に関するベータインサイクデータを入手するためにデザインされた。背後事情や人口統計学的特徴、教育、専門的トレーニング、精神健康状態、雇用、収入と支出、薬物及びアルコール依存、健康、信仰心と自己認識、そして治療に対する熱意と快楽に関する情報。 1、3、6ヶ月の治療中での調査:治療利用、治療の経験、そして精神的機能について。 12ヶ月の治療後追跡調査:は、以前の調査項目ならびに治療後の状態について。8部はDSM-III-Rに基づくデータ。9部:12ヶ月後の尿検査。多数の薬物について調査。使われた薬物、頻度、そして投薬方法も調査。12ヶ月の追跡では、無作為で25パーセントの回答者が尿サンプルを提供。合計464人の回答者。適当な尿の標本は417人から得られ、結果は362人の回答者分を得られ、NIDAで保障された研究室で分析された。</p>	<p>1993 - 1995年。米国において選ばれた薬物治療プログラムに入ったクライアアント。米国の異なるセクションに位置する6つの都市。 6つの都市は確立された治療制度を有する中・大都市圏でDATOS成人研究(ICPSR 2258)のサイトの一部。 治療プログラムは、意図的に抽出。(1)成人群とは区別して青年群を治療するプログラム。(2)少なくとも毎月5人の患者入会を見積もるプログラムがある所。 37のプログラムが研究に参加。回答者は1993-1995年に治療をはじめた者から抽出。 74パーセントが男性、24パーセントが黒人、21パーセントがヒスパニック系、平均年齢15歳-16歳、平均教育9年間。半分以上は少年法または刑法の違反等があり、3分の2は以前に薬物治療の経験はなく、主な薬物使用のパターンは週ごとまたは日ごとのマリファナのみ使用、またはは</p>	<p>開始時3,382人参加。2974人が追跡調査に選ばれる。(治療中調査:1ヶ月2,258人、3ヶ月1,120人)追跡調査:65.9パーセント(n=1,960)は場所が確認され、60パーセント(n=1,785)が参加。5パーセント(n=14)は死亡した。そして5.4パーセント(n=161)は参加拒否。</p>

3	薬物・住宅開発	Drugs and Police Response: Survey of Public Housing Residents in Denver, Colorado, 1989-1990 [ICPSR 6482] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/06482.x ml コロラド州デンバー／2年間／3回	これらの住宅開発地域において、過去六ヶ月に起きた出来事について。その開発プログラムの効果を計るために、3時点での調査。		アルコールとの併用。 デンバーの Quigg Newton と Curtis Park 住宅開発地域の世帯。	751 世帯中、1 波では 5 世帯、そのうち、2 波では 422 世帯、3 波では 423 世帯。3 波すべて答えたのは 283 人。
3	刑務所と刑	Effects of Determinant Sentencing on Institutional Climate and Prison Administration: Connecticut, Minnesota, Illinois, 1981-1983 [ICPSR 8278] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/08278.x ml コネチカット、ミネソタ、イリノイ州／3年間／3回	刑の決定が、刑務所の雰囲気と管理にどのような影響があるかを調べる。	囚人の逮捕、裁判、判決についての気持ち、法律に対する気持ち受刑中の身体的問題、時間の過ごし方、家族との接触、他の囚人との関係、監視者との関係、プログラムの参加、犯罪歴。	調査期間中の 5 つの刑務所の囚人を無作為抽出。	1 波 781 人、2 波 776 人、3 波 716 人。 3 波では 26 人を追加。
3	小中学生	Evaluation of the Gang Resistance Education and Training (GREAT) Program in the United States, 1995-1999 [ICPSR 3337] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/03337.x ml 「米国におけるギャング・レジスタンス教育及びトレニング (GREAT) プログラムの評価」	この研究は、5 つの異なるグループを調査することでギャング・レジスタンス教育及びトレニング (GREAT) プログラムの効果を評価。クロス・セクショナル・デザインにおける生徒たち (パート1)、法執行員 (パート2)、教育者 (パート3)、両親 (パート4)、そして学生のパネル調査 (パート5)。	GREAT に参加している者たちと、参加していない者たちに分けた。両グループの学生たちは犯罪やギャングへの掛かり合いの危険性は同じ。テストの前と後でのデータ収集の間における親の同意を認めて、特に両親に禁じられない限り含まれた。GREAT プログラムの 2 週間前と完了後の 2 週間後に行われた。続く 4 回の調査には、親の書面による同意を必要とした。積極的同意のプロセスの結果は、全体で、最初のサンプルの 67 パーセント。学校年度の始まりに、全ての参加するクラ	パート 5: 事前及び事後テストの調査完了率は、それぞれ 87% と 80% であった。 追跡調査 1、2、3、4 年の回収率 86%、76%、69%、67%。	パート 5: 事前及び事後テストの調査完了率は、それぞれ 87% と 80% であった。 追跡調査 1、2、3、4 年の回収率 86%、76%、69%、67%。

	アメリカで Great に参加している都市の生徒 / 5年間・4回		<p>スから、名簿を得た。引越しやその他の理由で登録を失敗した個人の名前を含んでいた。リストにはないが出席している生徒は加えられた。</p> <p>ブリテスタ：1995年の春に、6年と7年生。追跡調査：年毎に1996年から1999年まで同じサンブルの学生。</p>	<p>リンカン・ネブラスカ、ラスクルーズ・ニューメキシコ。パート5のサンブルは、22校、153教室、3500人の生徒。1995-1999。</p>	
警察のコンピュータ使用の効果	<p>Evaluation of the Use of Computers in Patrol Cars by the San Francisco Police Department, 1999-2000 [ICPSR 3489] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocon/ICPSR-STUDY/03489.xml</p> <p>「サンフランシスコ警察署によるパトロールカーにおけるコンピュータの使用の評価、1999-2000」</p> <p>サンフランシスコ / 警官 / 2年間・3回</p>	<p>1995年、問題解決と地域のための活動に参加する警察官の作業負担を減らす努力において、サンフランシスコ警察署は地域のための警察サービス (COPS) 助成金により、モバイル・コンピュータインテグレーション (MCTs)、ラップトップ・コンピュータを日々の業務に取り入れることをめざす活動をはじめた。</p> <p>科学技術的介入の効果、作戦上の効率、サービスの質、コンピュータを使った事件報告のための MCT の使用を仕事に取り入れることに関する警察官の態度や行動を調査。</p>	<p>パート1とパート2：国家と連邦政府データベースへのアクセスの重要性、犯罪データの詳細な分析、犯罪ホットスポットの地図、コミュニケーションでの出来事についての情報。報告書作成の時間短縮、パトロール時間の延長、適応性のあるテクノロジ、正確なテクノロジ、わかりやすい技術、信頼できる技術に対する警察官の態度。</p> <p>その他の質問：コミュニケーションベースの警察業務、犯罪問題に対する革新的な解決策の使用、公衆とのコミュニケーション、他の警察官とのチームワーク、コミュニケーションの力量に対する知識、地域ベースの警察への要求から来るプレッシャー、トレーニング量、地域ベースの警察業務の利点など。パーソナル・コンピュータをかつて使用したことがあるかどうか、何の目的のために、そしてかつてコンピュータの公式の訓練を受けたことがあるか尋ねられた。</p> <p>パート1とパート2：年齢、SFPDでの雇用期間、教育レベル、居住郡、性別、民族的アイデンティティ。パート2：観察によるデータ収集：報告書作成、コンピュータで、現場で、サービスへの呼び出し、パトロール、裁判所、そして市民と話している時間など。</p>	<p>1999年と2000年におけるサンフランシスコ警察署の全ての警官。</p> <p>パート1：自記式調査。</p> <p>パート2：パトロール警官が観察調査に参加。</p> <p>サンフランシスコ警察署の1,091人のうち、819人が、調査と観察活動に参加。</p>	<p>パート1の観察：163人がタイム1、205人がタイム2、そして451人がタイム3。</p> <p>パート2：819人のうち463人が観察活動に参加した：96人がタイム1、185人がタイム2、そして182人がタイム3</p>
3	Impact of Community Policing Training and Program Implementation on Police	<p>警官に対するフェニックス地域トレーニングプログラムの効果をみる。</p>	<p>仕事の満足感、地域型・問題解決型・伝統型取り締まり法について、警官の役割、地域との関係、文化の多様性の考慮など、仕</p>	<p>フェニックスの25の部署において、1995-1996年にかけて、ポリスアカデミーの14の授業</p>	

0	レーニング	Personnel in Arizona, 1995-1998 [ICPSR 3789] http://webapp.icpsr.umich.edu/ocoon/ICPSR-STUDY/03789.xml		事の様々なことに対する警官の意識や考え。	を受けた446人	
3	警察組織の評価	Longitudinal Evaluation of Chicago's Community Policing Program, 1993-2001 ICPSR 3335 http://webapp.icpsr.umich.edu/ocoon/ICPSR-STUDY/03335.xml	シカゴの警察の長期的組織変革（地域取り締まり法への移行）を評価する。組織変革は、抜本的な企画であった。	住民と地域の関係、地域に対する帰属意識、満足感、犯罪防止プログラムなどへの参加、それらの知識、安全と感じるかどうか、犯罪被害の経験、警察の評価、属性など。	住民のパネルデータ調査では、1993年、1994年の調査。（プロジェクトの一部。住民調査は、その一部。）	住民パネル調査の回収率 1993年 60% 1994年 58.8% 1995年 74% 1996年 65% 1997年 44.2%、1998年 41% 1999年 42.7% and 2001年 42%
0		イリノイ州・シカゴ／9年・9回				
3	薬物濫用と犯罪	Modeling the Crime Reduction Effects and Economic Benefits of Drug Abuse Treatment, 1979-1981: [United States] [ICPSR 9991] http://webapp.icpsr.umich.edu/ocoon/ICPSR-STUDY/09991.xml	1979年から1981年の間に米国内の10の都市において41の治療プログラムに収容された11,000人以上の薬物使用者に関するデータにもとづく調査。それぞれのデータ収集の波において、選ばれたTOPS治療プログラムの接触のあった全てのクライアントは、治療開始時のインタビューに参加。一部のサンプルは1ヶ月と3ヶ月の間隔で治療中調査に参加。追跡調査：治療後1年と2年後、または、治療後3年から5年後。	犯罪を減らすことにおける薬物治療の効果、刑事司法制度上何らかの経験のある人とそうでない人の薬物治療中の犯罪行動の違い、薬物治療以前、中、後のクライアントの犯罪活動の経済的損害について。Treatment Outcome Prospective Study (TOPS)から引き出された二次的データを使用した。	米国における全ての薬物治療クライアント 10都市と41治療プログラム 地区が故意に選ばれた。(1)ある種の薬物問題を抱える大都市及び大都市地域を代表する、(2)全ての主な治療モダリティを提供するプログラムを包含する(3)治療に効果的なアプローチであると信じられているものを代表する。TOPSに紹介されなかった、Street Crimes Programs (TASC)に代わるある治療代案クライアントも治療開始時調査を受けた。 TOPS クライアントの中から追跡調査のサンプルは層	*第1抽出単位—治療方式、全3つのコホート。 第2抽出：1979年のコホートに対する層は、time-in-programによる治療プログラム。1980年と1981年のコホート・サンプルに対しては、治療プログラム。個別面接。
1		「薬物乱用治療の犯罪減少効果と経済的利益の形成、1979-1981」				
1		10都市／3年間・5回。				

	<p>写、回答者の活動の結果としての犯罪のコーストの評価)。 補足的コスト分析データパート3・補足的追跡データ。1981年コホートにおける全ての回答者。薬物治療クライアントの治療後3年から5年の犯罪の活動、これらのコスト治療開始時調査の全サンプル・パート4: TOPS 研究における全てのサンプルに対して。人口統計学的属性及び背景、薬物治療センターに入ることについて、生活計画、アルコール及び薬物使用、薬物治療経歴、不法活動、雇用、収入と支出。</p>	<p>化抽出。追跡調査に選ばれた。外来による治療、住み込みの方式の1つに割り当てられ、開始時調査に参加した全てのTASCクライアントも、追跡。 *</p>	<p>オークランド58%、787人、2被回収率64%。 バーミングハム84%、580人、2被回収率75%。</p>
3	<p>警察 不法薬物</p>	<p>Modern Policing and the Control of Illegal Drugs: Testing New Strategies in Oakland, California, and Birmingham, Alabama, 1987-1989 [ICPSR 9962] http://webapp.icpsr.umich.edu/ocoon/ICPSR-STUDY/09962.x ml</p> <p>カリフォルニア州オークランド・アラバマ州バーミングハム /3年間・2回</p>	<p>センサスブロックの地図を使い、歩いてサンプリングチームを決める。18歳以上。</p>
1	<p>不法薬物の現代的取り締まり方法と管理の方法の効果を調査。カリフォルニア州オークランドと、アラバマ州バーミングハムにおいて、新しいプログラムの効果を図る。専門家の取り締まりモデルのどちらが効果よいかを調べる。</p>	<p>薬物濫用と飲酒について、身体的、精神的健康、犯罪、社会的活動、仕事について。回答者の半分（無作為）は、尿検査も実施。</p>	<p>Service delivery unit (SDU)698のユニットから、82を抽出。78ユニットの患者が含まれる。患者は治療開始時、終了時、その12ヶ月後に調査。</p>
2	<p>薬物依存治療効果</p>	<p>薬物やアルコール依存症の治療 Substant Abuse and Mental Health Services Administration (SAMHSA), Center for Substance Abuse Treatment (CSAT)などの公的支援を受けた治療プログラム の効果を調べるために、政府の指示による調査。</p> <p>(United States Department of Health and Human Services.</p>	<p>Communityの回収率は95%。患者、85%。開始時6593人、終わった後5274人、1年後5388人。</p>
3	<p>全米/6年間・3回</p>		

3	若者・非行リスク	Screening of Youth at Risk for Delinquency in Oregon, 1980-1985 [ICPSR 9312] http://webapp.icpsr.umich.edu/cooon/ICPSR-STUDY/09312.xml	Substance Abuse and Mental Health Services Administration. Center for Substance Abuse Treatment)	少年の家族、学校、そして犯罪的背景に関して。自立と成績、家族の犯罪性、家庭での品行問題、学校崩壊、学校能力、親の権威主義、親の衝突、自己報告の非行、仲間の非行、そして薬物及びアルコールの使用。	研究の全ての phase に自発的に参加した 300 もの家族のサンプルから選ばれた。4, 7, 10 年生の男性。1980 年及び 1985 年。	
1	「オレゴン州における非行に陥る危険性の若者審査、1980 年-1985 年」	幼い年齢における反社会的行動や公式に記録された非行のために危険性があるとみなされた若者に関する研究 1980 年 4, 7, 10 年生の 245 人の少年のサンプルを (パート 1) と 1985 年 (パート 2) に追跡。Gatings という 2 つのスクリーニングが将来の非行を予測するために用いられた。第 1 の手続きである triple gating は、学校での能力に対する教師の評価、家庭での反社会的行動に関する母親の報告、そして親の監視に基づいていた。第 2 の手続きである double gating は教師の評価と母親の報告だけを使用した。	ストレス、対処、知覚パフォーマンズ、生活の質など。最近ジアゼパムを処方された人々とジアゼパムの不使用者を 6 週間の間隔で 4 回インタビュー。回答者にとって重要な人、職場の重要な他の人からも、回答を得た。	調査に先行する 6 週間の間にジアゼパムを処方された、または nonaxiolic drug を処方されたことのあるデトロイト首都圏地区における 18 歳以上。サンプルはランダム・サンプルではない。回答者は、社会的及び人口学的特徴の幅広い層を代表するように選ばれた。ほぼ全員が、薬局記録から選ばれた。コンタクトした人の 48% は調査参加に同意。	タイム 1 では 245 人、タイム 2 では 188 人。	
4	オレゴン州 / 4,710 年生男子 / 5 年後	精神的健康状態に関連した社会心理学的事項に対するジアゼパム (バリウム) 使用の影響を調査。	SUPPORT のフェーズ 1 は、1989 年から 1991 年の間に受け入れた患者について、危	SUPPORT: 重い病気の進んだ状態で合衆国の病院に受け入	784 ケース フェーズ 1 の参加者の 85% がフェーズ 4 まで継続。個別面接。	
5	「未成年の精神安定剤使用の社会的影響: デトロイト、1981 年」	SUPPORT と HELP プロジェクトの目的は、患者が死期近く				
3	重病	Study to Understand Prognoses and Preferences for Outcomes				

1	治療 ・ 医療 シ ス テ ム	に経験する意志決定の機会に喪失に関しての国民の懸念に応え、機械的で、痛ましい死への過程を減らすため、意思決定を改善すること。 SUPPORTは2年間の観察研究(フェーズ1)とそれに続く2年間の臨床的試験(フェーズ2)からなること。	篤な病状の患者の間において、介護、治療の選択、そして意思決定のパターンの特性を記述。危篤な病状の患者の介護を改善する介入方策を案出し、患者の予後と機能予測する統計的モデルの構築のための過程ともなった。 SUPPORTのフェーズ2:1992年から1994年間の間に受け入れた患者については、機能の見通し、6ヶ月の生存可能性、患者の死期の介護に対する選択に関する情報を医師に提供。患者の選択を導き出し、予後を提供し、理解を高め、緩和的介護を可能にし、そして事前計画を助長するために熟練した看護人を提供。 介入によりコミュニケーションを円滑にし、蘇生に反対の指示を早める、患者が望まない状態に費やす時間を減らす(ICU、呼吸器、昏睡など)、患者の介護への選択に対する医師の理解を促し、患者の痛みを減らし、そして病院の資源使用を減らすと予想された。 両フェイズ:患者、彼らの代理、そして医師たちに対して行われた質問表調査と、臨床記録、決定に関する情報。 フェーズ2では介入の実行に関する情報。看護師の業務日誌。*	れられた危篤状態の80歳以上の患者。 SUPPORT:5つの合衆国の医療センターにおける9つの疾病(急性呼吸機能不全、慢性閉塞性肺疾病、鬱血心不全、肝臓疾病、昏睡、結腸癌、肺癌、悪性腫瘍を伴う複合的臓器システム不全、敗血症を伴う複合的臓器システム不全)の全ての患者。 SUPPORTのフェーズ1:1989年6月12日から1991年6月11日に入院した4,301人。フェーズ2:患者が1992年1月7日~1994年1月24日に入院した4,804人。 HELP:1993年1月21日から1993年11月21日に4つの合衆国の病院に入院した1,176人の80歳以上の患者の無作為のサンプル。 その他、疾病によっては特別の条件あり。 SUPPORTへ受け入れられた全ての患者は、自動的にHELPプロジェクトへ参加。結果として、90人のSUPPORT患者たちがHELPにも登録された。合計1,266人がHELP患者となった。	*SUPPORTの患者たちは、6ヶ月間追跡された。6ヶ月間後も生存していた者や追跡不可能となった者は1997年度の死亡を確認するため、National Death Indexと照らし合わせてわされた。 HELP研究は、SUPPORTのフェーズ2と同時1993年に行われた。80歳以上の入院中の患者のケア、治療の選択、意思決定のパターンの特性を描写。初期期の入院患者の死亡率と機能状態に関するモデル適合を試みるためにも使用。 HELPの患者たちは、12ヶ月間追跡。 12ヶ月間後も生存していた者や追跡不可能となった者は1997年度の死亡を確認するため、National Death Indexと照らし合わせてわされた。
6	「治療の結果と危険に対する予後及び選択を理解するための研究(SUPPORT)入院する初老の長期的プロジェクト(HELP)、1989年-1997年」 全米の5の医療センター/80歳以上(重病人)/2年間/2回				

3	矯正施設・女性	女性受刑者の生活をいくつかのレベルで研究。受刑者の子ども時代、思春期、成人してからのパックグラウンドを、身体的・心理的・社会的特長から調査。 矯正施設における経験が退所後の職場や家庭への適応や、再犯防止に果たしている影響。 若者の逸脱行為に関する調査。	500人の女性の過去の経歴が、矯正院と、仮出所記録、本人・親戚・知人・雇用者などとのインタビューから集められ、矯正処置の一般的な効果を判定するために研究された。 個人史、家族史、感化院史、仮釈放史、フォロアーアップ史に関する変数が検討された。	集められたデータは、入所終了後5年間と、仮釈放期間終了までの時間に関する情報。	500人の女性
3	若者・逸脱	Youths and Deterrence: Columbia, South Carolina, 1979-1981 [ICPSR 8255] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocon/ICPSR-STUDY/08255.xml	サウスカロライナ州コロンビアの高校生に相当する年齢の人の調査。 9つの高校において、3年連続。1979-1981	サウスカロライナ州の9つの高校	3,882人
1			人口学的・社会的経済的属性、教育達成希望、目標とする職業、仲間との活動。		
8		「若者と抑制：サウスカロライナ州コロンビア、1979-1981」 サウスカロライナ州／10年生 ／11年生／12年生	犯罪、警察に捕まった回数、逸脱に対する意識、罰をうけるかどうかの認識		

2 パネル調査の方法論に関する文献レビュー

岩澤 美帆
相馬 直子
元森 絵里子

世界各国でパネル調査が実施されるにしたがって、データの有効な収集、データ管理、分析に関する方法論も蓄積されつつある。本プロジェクトでは、主に社会科学の分野で活用されているパネル調査の方法論や分析手法について解説している文献を収集し、文献集を作成した（文献リスト参照）。また、いくつかの文献については、簡単なレビューを行ったので、以下に紹介したい。

グレン・H・エルダー, ジャネット・Z・ジール(正岡寛司・藤見純子訳).2003. 「第II部 データ収集と測定」『ライフコース研究の方法: 質的ならびに量的アプローチ』明石書店

Peters, H. Elizabeth. 1988. "Retrospective Versus Panel Data in Analyzing Lifecycle Events," *The Journal of Human Resources*, 23-4, pp.488-513.

樋口美雄, 太田清, 新保一成. 2004. 「パネルデータによる経済分析①～⑤」『経済セミナー』, 2004年6月号～11月号.

稲葉昭英. 2002. 「Pooled time series モデル」『家族社会学研究』14-1, pp.5-10.
(SASのGLMプロシジャによる、ランダム効果をモデルに投入するプログラム例の紹介)

山口一男. 2004. 「パネルデータの長所とその分析方法: 常識の誤りについて」『季刊家計経済研究』62, pp. 50-58.

北村行伸. 2005. 「第2章 パネルデータの調査方法と構造」『パネルデータ分析』岩波書店, pp. 27-56

グレン・H・エルダー、ジャネット・Z・ジール編著（正岡寛司、藤見純子訳）
『ライフコース研究の方法：質的ならびに量的アプローチ』（明石書店、2003）
「第Ⅱ部 データの収集と測定」

本書は、調査経験を持つ執筆者たちが、幅広い先行研究・調査の蓄積を元に、ライフコース（人生史）研究を実践する際の諸問題と方法を具体的に紹介するものである。中でも第Ⅱ部は、測定とデータの収集の方法が扱われている。パネル調査やライフイベント分析の統計的手法の紹介ではなく、調査設計やデータ収集の際の諸々の現実的な問題とその対処策が、先行の調査の事例を踏まえて具体的に紹介されているのが特徴である。

第4章「データの組織化と概念化」（ナンシー・カーウェイト、デービッド・カーツァー）では、データの組織化と管理運営に関わる実務上・概念上の問題について、調査事例に基づきつつ考察されている。「ジョン・ホプキンス大学・アメリカ人男性の人生史遡及研究」（1969）では、コンピュータの記憶容量の制約が大きかった時代的背景のため、データの効率的な格納と抽出の方法が、「カサレッチョ研究」（1989）では家族や世帯構成の変化を取り扱ったため、個人水準と家族／世帯の集合の水準とのデータの連結が課題であった。これらの技術的問題は現在では克服されているが、本論文では、その検討から、ライフコース研究のためのデータの組織化において次の2点が重要であることを浮かび上がらせる。すなわち、第一に、変数の値と同時に変数が変化した時点を測定することによって、ライフコース・データを相互に関連しあつた別々の領域からなるイベント・ヒストリイの集合として概念化すること。第二に、分析単位を、個人や世帯といった異なる水準のケースの集合と時間の集合とに分離することである。末尾では、データベース・システムの一般要件として、著者カーウェイトが構築したPCプログラムを例示しつつ、「何についてか（何を抽出すべきか）」、「どの単位か（誰を抽出すべきか）」、「いつか」の3点を定義する抽出命令文を書くことの必要性が指摘されている。

第5章「縦断研究における人生史の遡及法と逐次法による測定」（ジャクリーヌ・スコット、デュアン・アルウィン）では、データ収集の際の逐次法と遡及法の長所・短所が検討されている。一方の逐次法（パネル）デザインは、①ある出来事と同時にデータが収集できる、②出来事や変化の継続的な収集が可能となる、③出来事に研究者が理論主導的な定義を与えやすくなる、④意欲や期待と実際の結果を比較する機会が得られるなどの長所があり、ライフコースの変化や世代間にわたる変化を分析する可能性を持つが、①高い経費を要する、②パネルの抜け落ちと無回答により統計的問題が生ずる、③調査慣れがゆがみをもたらす、④時間の経過に伴う比較に耐えうる測度を保てるかといった欠点がある。他方の遡及法（横断）デザインは、低コストで長期間がカバーできる利点を持つが、①生存者のみを対象とする、②過去の想起の際の心理学的防衛機制によって回答にゆがみが生じうるといった欠点がある。これらから、本論文では、最も適用可能性のある調査デザインは、両者の長所を組み合わせる逐次法パネルデザインの中に遡及法による測定を組み込む

方法であることが示唆されている。なお、データの質を評価する際、信頼性より妥当性（事象をどの程度正確に測定しているか）を基準とするべきという論点も提出されている。

第6章「追跡接続調査における対象者の探索」（ドナ・デンプスター＝マクレイン、フィリス・モエン）では、パネル研究の代替としての過去の横断的研究への追跡接続 catch-up 研究という戦略が示され、対象者を見つけ出す作業が紹介されている。「女性の役割と福利調査」（対象者探索作業は 1982-86）等の調査の際に用いられた方法として、電話帳、郷土史協会の訃報記事記録、都市住所人名録等の調査、学校の名簿、病院の記録、死亡証明書などの調査の他、地域の情報提供者の助力、近隣住区の訪問などの方法とその成果が詳細に報告されている。また、グンダーソン(1989)に依拠し、調査設計時に、フルネーム、出生年月日と場所、社会保障番号の動態調査統計を入手することの必要性が強調されている。

第7章「人生史データを収集すること——ドイツ人生史研究の経験から」（エリカ・ブリュクナー、カール・ウーリッヒ・マイアー）では、「ドイツ人生史研究」の事例より、ライフコース・データの一般的な特徴、質問紙表の内容や収集の技法、収集データの格納や編集手法が記述される。20年以上続いている同研究は、全人口から抽出された女性を含む幅広い範囲の出生コホートを扱い、生活領域を包括的に調査している。本論文で扱われた当該研究の特徴は多いが、時間と生活課題分野のクロスにより人生史マトリクスが構成できるように調査設計がされている点、中途より電話による調査（CATI）を導入して面接調査員の作業を容易にしてデータの質を高める工夫がされた点が特徴であろう。

（元森絵里子）